

学校名	東根市立東根小学校			実践者	設楽 明日佳
学年	特支(情) 2, 5年	教科	特別学活	単元名	順序立ててよりよい生活を考えよう
本時の目標	協力して効率的な片付けの順序を考え、フローチャートに表し、考えを説明することができる。				
プログラミング的思考とのつながり	プログラミングの基礎であるフローチャートを利用して、自分の行動順序を見直し、効率のよい生活を考えることで、順次、分岐、分解、比較などのプログラミング的思考に触れることができる。				
使用機器 ツール 教材 ネットワーク	使用機器			学習用ツール (アプリ, ソフトなど)	
	<input type="checkbox"/> 大型提示装置 <input type="checkbox"/> 実物投影装置 (書画カメラ) <input type="checkbox"/> 学習者用コンピュータ (児童生徒用) <input type="checkbox"/> 指導者用コンピュータ (教員用) その他 ()			・参考図書「アルゴリズムえほん」(フレール館)	
	<input type="checkbox"/> ネットワーク利用 <input type="checkbox"/> 学習者用サーバ利用 <input type="checkbox"/> その他 ()				
本時の展開 (活用のポイント)	<p>※4時間扱いで行った。</p> <p>○1・2時間目…「アルゴリズムえほん」の読み聞かせ・フローチャートを作る練習。 誰もが毎日必ずする歯みがきの仕方を取り上げ、ロボット役に歯みがきをさせるための、命令する動作を考えた。その際、短冊に動作を書き出し並べた。言葉やイラストを用いて簡単に分かりやすく表した。実際に命令して人間ロボットを動かし、上手いかないところは並べ替えたり動作を追加していった。</p> <p>○3時間目…児童の実態に応じた課題「朝、起きてから家を出るまで」を考えた。 行動をどこまで分解するのかを例示し、それを基に自分の生活を振り返りながら短冊を書いて並べ黒板に貼った。互いに見合い、共通点や相違点を見つけ、改善点を探し、アドバイスを合った。</p>				
および 児童の学びの様子 (☆)	<p>○本時</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 片付ける必要感をもたせる。 2 教卓の片付け方を一緒に考える。 必要な動作を短冊に書き並べ、教師ロボがその通りに動き、足りない部分や不具合を修正した。 3 課題 (机の片付け方) を2人で協力してフローチャートに表す。 より少ない動作で片付けをするためには何から手をつけるとよいのか、2年生が主で考え、5年生がアドバイスをしながら進めていった。様子を見て区切り、片付けながら行った。 4 ロボットになり、フローチャート通りに片付ける。 				
実践を通しての考察	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング学習の導入として取り入れてみたが、紙と筆記用具さえあればでき、ロボットになることで楽しく学習することができた。 ・ひとつの行動にたくさんの動作があり、ロボットを思い通りに動かす難しさに気付くことができた。また、自分の行動を振り返る中で、より効率のよい順序に気付くことができた。 ・ゲーム感覚で、不具合を見つけると自然と修正することができていた。 ・自閉の子どもは特定のことにこだわりをもち、同じ生活パターンや手順を好む傾向があるため、フローチャートを用いた生活改善への支援は有効であると感じた。 				

